

特別講義H ( 大学コンソーシアム関門 )

土屋 敏夫

科目ナンバリング	AD01N	開講学期	秋学期集中	単位数	2単位	配当年次	1年生	
<b>授業概要</b>		<b>教科書</b>						
『下関の地域課題と可能性』 下関地域における諸課題を、「地域産業」「地域教育」「地域資源」「社会経済」「地域社会」という5つの視点から概観する。各視点ごとに1日3テーマ(3コマ)をオムニバス形式で講義し、各回において地域課題の発見、課題へのアプローチ、調査研究手法、課題解決の手法などを学ぶ。講義を通じて、下関地域における今後の発展の可能性について触れる。  9月7日(月)～11日(金)の2限～4限で実施。 2限(10:40-12:10) 3限(13:00-14:30) 4限(14:40-16:10)		書籍名				著者	出版社	出版年
到達目標		教科書は定めない						
下関地域に関する諸課題について、「地域産業」「社会経済」「地域資源」「地域教育」「地域社会」という5つの視点から概観することで、それらの課題に対する理解を深める。さらに、地域課題の発掘や解決に向けたアプローチの方法について学ぶ。		書籍名				著者	出版社	出版年
評価の方法と基準		参考書						
講義ごとの質問や感想 50%、レポート 50%		書籍名				著者	出版社	出版年
		備考						
		9/7(月)	外戸保大介	吉津直樹	樹長	久留米大学	藤谷岳講師	
		9/8(火)	天野かおり	小笠原正志				
		9/9(水)	木村健二	相原信彦	西田雅弘			
		9/10(木)	木村健二	川野祐二	Kristen Sullivan			
		9/11(金)	山川俊和	水谷利亮	桃山学院大学	吉弘憲介	准教授	

授業の計画	
1 立地企業の地域的展開と地域資源の活用策	下関市内に立地する大企業の地域的展開を考察するとともに、それによって地域に与えられた地域資源について検討する。
2 下関市および周辺地域におけるUIJタウン	長らく人口の大都市への集中と地方における流出が続いているが、近年、都市から地方への移住者が増加しつつある。このような動向の意味を考える。
3 地域環境政策の担い手と費用負担	地域の特性・条件をふまえた環境政策を進めるための担い手と費用負担のあり方について、事例と理論の両面から考察する。
4 学校とともにある地域づくり	コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)を基盤とした「地域とともにある学校づくり」を「学校とともにある地域づくり」へ。
5 地域高齢者を元気にする介護予防運動	住民グループが地域高齢者の介護予防に取り組んできた10年間の歩みから、元気高齢者を育成する具体的な方策を提言してみたい。
6 関門鯨産業文化史と鯨のまちの課題・展望	近代捕鯨発祥地である下関の鯨産業文化史を消費地・北九州とともに辿りながら「日本一の鯨のまち」を目指す課題と展望を検証する。
7 英国領事館を通して見た20世紀初頭の下関	20世紀初頭の下関の対外関係について、「下関英国領事館」の設置とその後の展開を通して探る。
8 明治期の下関と当時の国際化	明治期の「下関英国領事館報告」の内容を紹介し、地域独自の国際化の発端と成長の過程を明らかにする手掛かりを提供します。
9 地域資源としての公立大学	公立大学は、地方交付税交付金の積算根拠として、地方自治体の財源という側面を持つ。下関市立大学の財政的貢献を明らかにする。
10 関門地域の工業化と鈴木商店	日露戦後から第一次大戦にかけて関門地域に進出した鈴木商店系企業を追跡し、同地域の工業化に果たした役割を検証する。
11 偉人たちのエッセンス	下関に関わる偉人たちの言動から彼らの思想や信念というべきエッセンスを抽出し、郷土が誇る人々の生き様を考える。
12 地域における英語学習機会と地域住民の役割	地域住民(大人)のためにどのような英語学習機会があるか。地域レベルの生涯英語学習の在り方と地域住民の役割について考える。
13 3.11以後のエネルギー転換と地域課題	東日本大震災以後の日本のエネルギー転換(再生可能エネルギーの普及)の現状と課題、特に地域課題を論じる。下関への政策的な含意について考える。
14 過疎・高齢化地域の地域づくり政策の検討	「消滅可能性都市」や「地域創生」が世の中で注目を集める中で、過疎・高齢化地域の地域づくりのあり方を再検討してみたい。
15 学際的にみる地域活性化の定義について	曖昧な意味になりがちな、地域活性化を複数の分野事例から理論的かつ実例を通じて検証する。